

その人らしい暮らしを 再建するリハアプローチと 多職種連携について

医療法人 都留内科医院 訪問リハビリテーション
理学療法士 馬崎美緒

- ①訪問リハビリ開始までの経緯
- ②ご本人について（本人・家族の希望）
- ③評価、問題点の抽出、目標設定
- ④支援内容
- ⑤まとめ

訪問リハビリ開始までの経緯



訪問リハビリ介入前は、リハビリ特化型デイサービスの利用
をしながら眼鏡屋を経営していた



2024年7月
コロナウイルスに感染し体調が悪化
活動量の減少により廃用症候群が進行

▶ デイサービスの**利用が困難**
一人でお店まで行くことが困難となりお店の閉店

「**リハビリ特化型デイサービスの利用を再開できること**」
を目標に同年8月から訪問リハビリを開始



ご本人について

- ・真面目な性格
「**自分のことは自分でしたい**」と強く思われている
- ・眼鏡屋さんの店主
- ・社交的
友人の訪問や電話は度々あり、交流が多い
今年は米寿のお祝いに同窓会をする予定
以前はパーキンソン病の会などにも参加していた
(コロナ禍で機会減)



ご本人の生い立ち

- ・戦後、父親が退職後に他界
- ・5人の兄弟がいたが早くに3人他界
- ・母親一人であったため中学校を卒業後、時計の見習い奉公に出る
- ・23歳で独立、現在の場所に開業。
現在まで63年間お店を切り盛りしてきた

ご本人・ご家族の希望



本人

- ・またデイに行けるようになりたい
- ・妻や家族に迷惑をかけたくない
- ・自分のことは自分でしたいので健康維持したい
- ・長年続けてきたお店の整理をしたい



ご家族（妻）

- ・自分のことを自分でしてほしいが、手伝えることも増えてきている
今より悪くなってしまうと支援も難しくなってくる
- ・デイに行けるようになってほしい

本人らしさ（介入前の状況）

【自宅での普段の様子】

- ・歩く前に準備体操をする（すくみ足の予防）
- ・服は自分で選ぶ（身だしなみを整える）
- ・入浴時に下着を洗う、洗った下着を干す
- ・デイサービスで習った自主トレーニングを継続して行っている

【活動と参加】

- ・仕事（眼鏡屋）
- ・常連のお客様との交流

初期評価（2024年8月初旬）

【血圧】105～120/60～70mmHg、【脈】70～80回/分、【Spo2】96～97%

【関節可動域制限】左足関節背屈

【筋力】全身の低下著明（右<左）

【SPPB】4/12点（起立1点、歩行0点、バランス3点）

【パーキンソン病症状】

ホーン・ヤールの重症度分類：Ⅲ度（小刻み歩行・すくみ足が見られる）、
生活機能障害度：Ⅱ度（日常生活・通院に部分的な介助が必要）
すくみ足＋、突進用歩行＋、動作開始時や方向転換時に動作が不安定

【内服情報】

パーキンソン病の薬は1日4回（8時、12時、15時、18時）内服

初期評価

(2024年8月初旬)

【基本動作】

寝返り：ベッド柵を使用して自力で可能、
起き上がり：(左側へ)介助、(右側へ)物的支持で自立
端座位：自立、立ち上がり：手すり等を使用し見守り、
立位保持：見守り
移動：歩行器歩行見守り(方向転換時にふらつきあり)

【ADL】BI：60点

(減点項目(点)：移乗10、トイレ5、入浴0、歩行10、階段5、更衣5、排便5、排尿5)

【IADL】FAI：5点

【日常生活自立度】A1

【認知症高齢者の日常生活自立度判定基準】自立

問題点の抽出

① 妻の介護疲れ、ストレス(不眠症)

自宅内移動、起居時やトイレ時に見守りや介助が必要

② デイサービスの利用が困難となっている

筋力や歩行能力、運動耐容能の低下

③ 社会参加が困難となっている

屋外歩行能力・運動耐容能の低下、整理整頓が困難

訪問リハビリの目標

短期
目標

① 基本動作の介助量軽減

② デイサービスの利用再開ができるようになる

長期
目標

③ 社会参加の再獲得

(友人との交流、パーキンソン病の会・同窓会への参加、お店の片付けなど)

訪問リハビリでの支援内容

① 基本動作の介助量軽減

- ・基本動作練習
(自宅内移動、起居動作、トイレ動作などの反復練習)
- ・環境調整
(右側から起き上がれるようにベッドの配置を変更)
- ・妻への介助方法の伝達
(精神的なフォローも心がけた)

訪問リハビリでの支援内容

② デイサービスの利用再開ができるようになる

- ・ PTとOTで1回60分を週2回で介入
筋力増強運動や歩行練習などを中心に実施
- ・ 元々自主運動を行っていたため、
ご本人の性格や意志を配慮し、内容は大きく変更せず、
運動フォームの修正や回数・セット数の調整を行なった

訪問リハビリでの支援内容

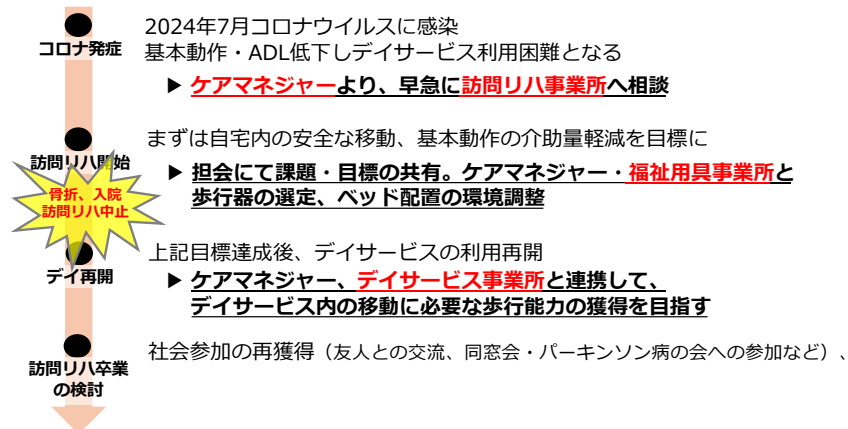
③ 社会参加の再獲得

(友人との交流、パーキンソン病の会・同窓会への参加、お店の片付けなど)

- ・ 屋外歩行評価
- ・ お店内の移動評価を検討していた が…

家族と外出するため、車に乗る際に、バランスを崩し後方へ転倒。
その後腰痛を訴え、自宅にて経過観察していたが、痛みが軽減しないため
病院受診。第一腰椎の骨折と診断されたため入院の運びとなった。

— 本症例を通した多職種連携 —



まとめ

- ・ 今回、コロナウイルス感染によってADLが低下したパーキンソン病を罹患している利用者を担当した
- ・ ケアマネジャーの働きかけにより、
早期に他職種による介入を行うことができた
- ・ **目標を共有し、それぞれの専門職が共同してアプローチ**
する事が本人の望む生活を支えることに繋がると考える